二〇一八年度　愛知県公立高校入試問題（A）

四五分
二二点

一

次の文章は、今から約四十年前に、哲学者の田中美知太郎（たなかみちたろう）によって書かれた随筆である。これを読んで、あとの㈠から㈤までの問いに答えなさい。

1　鷗外（おうがい）の『即興詩人』は名訳であって、原作よりもすぐれていると評判された。実際にそうかどうかは知らず、とにかくそういうことはありうるだろうと思う。わたし自身にもそれらしいことがあったからだ。もうだいぶ以前のことだが、わたしがある学会の代表者になっていたとき、たまたま関連の国際会議が東京にあって、そのために来ていた外国の代表者の表敬訪問みたいなものを受けたことがあった。わたしたちが委員会か何かの集まりをしていたときだったと思う。歓迎の挨拶をするのがわたしの役目である。わたしはこの種の挨拶が全く苦手である。むろんそれを外国語でのべるなどということは、［①］のことである。さいわいなことに、わたしの学会は語学の得意な人たちの集まりなので、そのうちから特に上手な人に頼んで通訳してもらうことにした。何をわたしがしゃべったか、全く記憶にないが、どうせお話にならないようなものであったことは間違いないようである。それをわたしの友人は、格調高い英語に通訳して、堂々たる演説にしてくれたようである。りっぱすぎて客の方が面くらっていたのではないかとも思う。つまりこのような場合は、［A］が［B］よりも上出来ということになる。わたしとしては得をしたことになるのかもしれない。感謝こそすれ文句を言う筋は何もない。しかしほかの人から見ると、これはわたしが実際に言ったことよりもいいという、まさにその点で間違っているということになるだろう。そしてその点で批判を受けることになるかもしれない。

2　これがわたしの下手な挨拶にかかわる限りは、大した問題にはならないが、責任のある重要人物の言ったことだとすると、ひょっとしたことで大問題にならないとも限らない。またそういう重大な影響とか結果とかがすぐ実際に出てくるのではないにしても、古今の名作とか世界的な古典とか言われるようなものの翻訳ともなれば、ただ調子のよい文章に訳されているというだけでは、すぐにいい訳だとは言えないことになる。それらの作品については、多方面の学問的研究が行われていて、それが長い歴史をもっているから、それら

を一応心得た上での正確な訳が要求されることになる。そしてそれの学問上の要求はかなりきびしいものになる。だから、いわゆる名訳もそう簡単には出来ないことにもなる。しかしまたそう簡単にあきらめてしまうこともできない。それは挑戦目標としてわたしたちを招くわけである。それは一方においては、読みやすく楽しめる文章を目ざすとともに、他方では原文に完全に忠実であることにもつとめなければならないことになる。後者の条件は、いわゆる逐語訳とか直訳とか呼ばれるやり方で、ある程度までみたすことができる。

[3] プラトン翻訳の場合だと、これがドイツ語訳の伝統になっている。ドイツ語とギリシャ語とは、もともとインド・ヨーロッパ語族の一つとして、親類関係にあるのだし、そのなかでも相互に似たようなところがいろいろあるから、一語一語対応させるような逐語訳も、かなりの程度まで可能である。しかしこれらのドイツ訳は、一見もっともらしい文字がならんでいるけれども、さてどういうことが言われているのかと考えてみると、どうも意味のつかめない場合が少なくない。普通のドイツ人をつかまえて読ませてみても、よくはわからないようだ。アーペルトのプラトン訳は、直訳調を脱しようとした努力の見える訳だけれども、大学で教えていたドイツ人教師が、むずかしいと言ったことがあった。

[4] これに対して、大意だけをつかみ、面倒なところはあっさり切りすててしまって、できるだけ読みやすい訳をつくるのが、イギリスの伝統と言えるかもしれない。ジョウェットのプラトン訳などは、その代表的なものと言うことができるだろう。これはこれで一般読者をプラトンに親しませる上で大変なメリットがあるわけである。しかしプラトンの作品が、どれもこんな調子で完全に訳せるかどうか。哲学上のこみいった論理が、これでわかるかどうか。ポピュラーな作品だけを読んでいる分には、ある程度まで楽しい読み物になるかもしれないが、後期作品のようなものになると、案外の硬さに泣かねばならないことになるだろう。英語訳にしても新しいものには、プラトンの思考のあとを忠実にたどるために、英語そのものに無理を加えるようなものも見られる。英語を得意とする友人の一人が、こんな英語があるのかと憮然（ぶぜん）としていたことがある。②いい翻訳のための二条件というのは、なかなか調和がむずかしく、今日の訳者もこのために苦心しているのである。

[5] これは音楽の演奏などでも同じかもしれない。ここでは譜面に忠実であることと自己の一貫した解釈をもつことの二つが要求されるだろう。むかしは音楽会へ行くと、楽譜とにらめっこをしながら聴いている熱心家をよく見かけたものである。むろんこれも学習者にとってはよい勉強になるものかもしれないが、演奏がそのような点だけを聴くものでないこともたしかである。しかしまた主観的な解

釈だけが独走するような演奏も困りものである。忠実な受動性と奔放な能動性との調和は、よい演奏よい翻訳において充足されなければならない必要条件なのである。そして自然研究や歴史研究においても、データをたくさん集めて、これを精密に観察し、忠実に記述する仕事と、そこから解釈をとり出すための分析、推理、想像をはたらかせる仕事とは、うまく調和させられなければならないだろう。

6 わが国の今日の文化は大体が翻訳文化と呼んでいいようなものだと考えられるが、それの土台となる翻訳そのものには、いま言われたような二条件が果たしてうまく調和されているのかどうか。わが国に入って来る映画や流行歌の題名には、いかにも思わせぶりな、情緒的題名が少なくない。しかし原名も原物も、およそそれとは違ったものが少なくない。これらの題名は名訳の一種とも目されて、それだけを取って考えれば、傑作だと感心せずにはいられないものもある。しかし万事がこの調子ですませられるかどうか。余計な解釈によってふくれ上がった情報だけにとり囲まれていると、われわれは世界の実際について、とんでもない判断や行動のあやまちをおかし、それがわれわれの悲劇を将来させることになるかもしれないのである。

（田中美知太郎（たなかみちたろう）「名訳」〈「日本の名随筆　別巻45　翻訳」所収〉より）

（注）
○ 1～6は段落符号である。
○ 鷗外（おうがい）＝森鷗外のこと。
○ 『即興詩人』＝アンデルセンの小説。
○ 学会＝同じ分野の学術研究を目的とした研究者の団体。
○ プラトン翻訳＝古代ギリシャの哲学者プラトンの作品の翻訳。
○ インド・ヨーロッパ語族＝東はインドから西はヨーロッパ大陸にわたって広い範囲で用いられている多くの言語の一群のこと。
○ アーペルト＝十九世紀のドイツの哲学者。
○ ジョウェット＝十九世紀のイギリスの哲学者。
○ 憮然（ぶぜん）＝驚きあきれて、ぼう然とするさま。
○ 目する＝評価する。
○ 将来させる＝ある状態をもたらす。

㈠　①にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　さぞ　イ　かねて　ウ　たちまち　エ　なおさら

㈡　Aと　Bにそれぞれあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　A　翻訳　B　原作　イ　A　原作　B　翻訳　ウ　A　挨拶　B　演説　エ　A　演説　B　挨拶

㈢　②いい翻訳のための二条件の内容を説明している一文を、これより前の文章中からそのまま抜き出して、始めの五字を書きなさい。

㈣　この文章中の段落の関係を説明したものとして適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　第二段落では、第一段落で述べた体験談を基に仮説を立てて検証することで、筆者独自の視点を提示している。
イ　第三段落では、第二段落で述べた主張の根拠となる複数の具体的な事実を挙げて、詳しく説明している。
ウ　第四段落では、第三段落までの筆者の考えとは異なる考えを示した上で、それに対する反論を述べている。
エ　第五段落では、第四段落までとは別の例を示して説明し、筆者の主張をさらに根拠づけている。

(五) 次のアからオまでの会話は、この文章を読んだ生徒五人が意見を述べ合ったものである。その内容が文章に書かれた筆者の考えに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア (Aさん) 森鷗外の小説は教科書にも載っていたので、読んだことがありますが、翻訳もしていたのですね。鷗外が翻訳した『即興詩人』が原作よりも優れていると評価された理由はどこにあるのでしょうか。私は、鷗外はドイツに留学してドイツ的な翻訳の伝統を身につけていたため、忠実な翻訳によって作品の魅力を十分に伝えることができたからではないかと思います。

イ (Bさん) 私は、同時通訳の仕事に興味をもっていますが、通訳するときは忠実に翻訳することが最も大切だと思っていました。でも筆者は、プラトンの翻訳におけるイギリスの伝統のように、原文に忠実でも表現に無理が生じて分かりにくくなるということが起こると述べています。ですから、まずは何を伝えたいかという大意を優先して訳すことが大切だと思いました。

ウ (Cさん) 私はピアノを習っていますが、自分なりに曲を解釈して演奏したとき、先生から譜面どおりでない点を指摘されました。自分のイメージを自由に表現しすぎて、譜面に忠実でない弾き方をしたのです。演奏も翻訳も、作品を正確に表現することと自分の解釈を表現することとの調和を図ることが大切なのではないでしょうか。

エ (Dさん) 森鷗外が活躍したのは、西洋の学問や文化が翻訳されてどんどん取り入れられていった明治・大正時代です。筆者は、昔から翻訳文化であったわが国には「いい翻訳のための二条件」を調和させる伝統があったために、鷗外の翻訳は名訳となり、日本文化もここまで発展してきたと考えているようです。

オ (Eさん) この文章が書かれたのは四十年も前ですが、今読んでも説得力があると感じました。特に、主観的に解釈した情報ばかりに接していると、とんでもないあやまちをおかすかもしれない、という指摘には重みを感じます。私たちが世界と向き合っていく上で、大切なことを見落とさないためには、「いい翻訳のための二条件」はとても参考になる視点だと思います。

二

次の㈠、㈡の問いに答えなさい。

㈠ 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 世界中で生涯スポーツが奨励されている。

② 近くの海岸で初日の出をオガむ。

①［　　］　②［　　む］

㈡ 次の③の文中の傍線部と同じ漢字を用いるものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

③ 店員さんに、ホウソウ紙は必要ないことを伝えた。

ア 安全のため、乗船前に救命胴衣をソウチャクする。

イ 私の兄は、無線でソウジュウする飛行機を作っている。

ウ この岬では、千五百万年前のチソウを見ることができる。

エ 鉄道が開通し、大量に物資をユソウできるようになった。

［　　］

三

次の文章を読んで、あとの㈠から㈥までの問いに答えなさい。

1　ＡＩ（人工知能）は既に、バッハに似たような曲を作ることができます。カリフォルニア大学音楽学部教授のデヴィッド・コープが開発した作曲プログラムの「エミー」は、聴衆がバッハの本当に作った曲と区別できないような曲を生み出すことができます。しかし、それはしょせんまね事に過ぎず、革新的な創作行為とは異なっています。バッハ自身の曲をインプットせずに、中世・ルネサンス期からバロック期に至るまでのバッハ以前に作られた音楽をインプットし、バッハに類似した曲を生み出すことができれば、その時初めてＡＩがバッハと同等の創造性を持ち得たと言うことができます。それが可能であるならば、歴史上に存在したあらゆる音楽をインプットすることによって、多くの人々に新規性を感じさせる曲を作ることができる可能性があります。しかしながら、①ＡＩにとってそれは困難です。

2　音楽の好みは人それぞれですが、それでも多くの人々を心地良くさせるメロディやリズムのパターンは確かに存在します。歴史上偉大とされている音楽家はそのようなパターンの発見者であり、偉大な芸術的創作というのは、人間の脳に眠る知られざる感動のパターンを掘り起こす作業であるとも言えます。このような掘り起こしがＡＩに難しいのは、ＡＩは人間と同じ脳を有していないので、人間が何に感動するのかをアプリオリに（先立って）知ることができないからです。人間は多種多様な欲望や感性を持っているにしても、基本的には似たような脳を持っているので、人間同士である程度の共通性があります。私は、それを「感覚の通有性」と言っています。人間の作曲家は、新しいメロディが浮かんだ時に、そのメロディが心地良いものであるかどうかを自分の脳に問い合わせることができます。そして、そのようなメロディは他人にとっても心地良いものである可能性が十分にあります。それは人間同士には感覚の通有性が存在するからです。ＡＩと人間の間には感覚の通有性がアプリオリには存在しません。ＡＩは、新しく思い浮かんだメロディが人間にとって心地良いかどうかを自分の脳に問い合わせながら作曲することができないのです。（中略）

3　「身体知」とは、泳ぎ方とかバットの振り方、バイオリンの弾き方のような、言葉では明示しがたい無数の身体感覚に基づいた知識のことです。私たちの脳と身体は神経系で複雑につながっており、身体知はそのような総体によって獲得されています。人間は無数の身体感覚を持っており、それがスポーツばかりでなく、学問や芸術、ビジネス、対人サービスにとって必要な技能やひらめきを与えてい

ます。ホーキング博士が言うように脳は確かに筋肉ではありませんが、筋肉は脳のように思考に関与しています。ＡＩがたとえ人工の身体であるロボットに搭載されたとしても、その身体は生命であるところの人間のものとは異なっています。そうであるならば、その「ＡＩ・ロボット」は人間が獲得しているような身体知を自ら発見し獲得することはできません。

4　例えば、バットの振り方を人間に教えるコーチの仕事がロボットに務まるでしょうか。ロボットは人間と同じ身体を持っていないので、人間がバットを振っている時の身体感覚を自ら知ることはできません。ロボットは人間とは異なる身体を有しているからです。人間は多種多様な身体感覚を持っていますが、その感覚は人間同士である程度の共通性があります。このことを「身体感覚の通有性」と呼ぶことができるでしょう。人間とロボットではほとんどこの通有性がありません。ロボットも、マニュアルにしたがってバットの振り方を人間にコーチすることは可能だと思われますが、マニュアルそのものを作り出すことはできません。また、自分の身体に問い合わせることができないので、マニュアル外のきめ細かなコーチングも難しいでしょう。②、ロボットは通り一遍のコーチを務めることができても、名コーチになることはできません。

5　感覚の通有性は、さらに発想力の問題にも関わってきます。今でもＡＩ技術を組み込んだソフトウェアは新しいアイディアを発想します。将棋を指すソフトウェア（将棋ＡＩ）は、今やマシンスペックにモノを言わせて何の創造性もない力技の探索をしているわけではありません。プロ棋士のまねをしているだけでもなく、これまでプロ棋士が指したことのない新しい手（新手）を指すことができます。③、最近の将棋ＡＩは、プロ棋士の対戦記録（棋譜）からはもはや学ぶことがなくなり、将棋ＡＩ同士の対戦の棋譜から学習して、新手を編み出すようになってきています。したがって後数年で、ＡＩ同士の対戦が人間の棋士の域をはるかに超えた「神々の戦い」の域に達することは間違いないでしょう。羽生善治（はぶよしはる）名人といえども将棋ＡＩの足元にも及ばなくなる、そんな時代がすぐにやってくるのです。

6　しかしながら、一見「人間対コンピュータ」の戦いに見える将棋の対戦も、その本質は「人間対人間」の戦いであると言えます。コンピュータを用いた人間と徒手空拳の人間の戦いであるに過ぎません。将棋ＡＩが人間を打ち負かしたとしても、コンピュータが人間に勝利したことにはなりません。なぜなら、そうした将棋ＡＩを設計し開発したのは、他ならぬ人間だからです。コンピュータが自分で将棋を指すソフトウェアをプログラミングしたわけではありません。プログラムがアイディアを発想するといっても、そのプログラムを開

発したのは人間であり、その発想の枠組みを設計したのは人間です。そういう意味で、お釈迦（しゃか）様の手のひらの孫悟空（そんごくう）のように、いまだＡＩは人間の手の内にあります。プログラムの発想がゲームで人間を打ち負かしたり、人間を驚かせたりするにしても、その枠組み自体をはみ出すことはありません。例えば、将棋の対戦で負けそうになった時に、将棋盤をひっくり返してゲームをほごにすることを思い立つ将棋ＡＩは今のところ存在しません。ＡＩにそもそもそのような欲望が存在しないからです。発想が欲望に基づいて生み出されるというのが重要な点です。欲望がなければ、将棋盤をひっくり返すというような飛躍的なアイディアを発想することができないのです。

7　様々な欲望をおのずと獲得できるようなＡＩが開発できたら、そのようなＡＩは生命的であると言えます。その場合、ＡＩの欲望の増長は人間のものとは全然違ったあさっての方向を向いている可能性が高いでしょう。このようなＡＩが生み出すアイディアは人間にとって意味のあるものにはなりません。ＡＩと人間の間に感覚の通有性が存在しないからです。発明や発見などのアイディアの発想においても、ＡＩは、芸術的創作と同じ問題に突き当たるというわけです。「人間にとって意味のある飛躍的なアイディア」と「人間にとって心地が良くてかつ画期的なメロディ」はどちらも同じ理由によってＡＩには生み出しがたいのです。このように、ＡＩは、人間との間に感覚の通有性を持ち得ないために、自ら主導して人間にとって価値のあるような発明・発見、芸術的創作を行うことができません。しかし、それは何も欠点というわけではないでしょう。私としては、機械が飛躍的な発想を行って人間の度肝を抜いたり、人間の魂の琴線を震わすような芸術作品を創作することを望んではおりません。それらは、人間の仕事として残しておいていただきたいのです。

（井上智洋（いのうえともひろ）「人工知能と経済の未来　２０３０年雇用大崩壊」より）

（注）○　1～7は段落符号である。
○　インプット＝入力すること。
○　ホーキング博士＝イギリスの理論物理学者。
○　コーチング＝指導・助言すること。
○　マシンスペック＝ここでは、コンピュータの性能のこと。
○　徒手空拳＝自分の力以外に頼るものがないこと。
○　ほごにする＝なかったことにする。

(一) ①ＡＩにとってそれは困難ですとあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　ＡＩによる革新的な創作行為が難しいのは、ＡＩは、あらかじめインプットされたメロディやリズムをそのままつなぎ合わせることでしか曲を作れないからである。

イ　ＡＩによる革新的な創作行為が難しいのは、ＡＩには、まだ知られていない新しいメロディやリズムのパターンを生み出して人間を驚かせたいという欲望が存在しないからである。

ウ　ＡＩによる革新的な創作行為が難しいのは、人間と同じ脳を持たないＡＩには、人間がどのようなパターンのメロディやリズムに心地良さを感じるかが分からないからである。

エ　ＡＩによる革新的な創作行為が難しいのは、現在の技術では歴史上に存在した全てのメロディやリズムをＡＩにインプットすることができず、データが不足するからである。

(二) 筆者は第三段落で、「AI・ロボット」には獲得できない人間の身体知について述べている。それを要約して、七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「身体感覚」、「総体」、「ひらめき」という三つのことばを全て使って、「人間の身体知は、……」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよろしい。

（注意）・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。
・文は、一文でも、二文以上でもよい。

人間の身体知は、

(三) ②、③にあてはまる最も適当なことばを、次のアからカまでの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　しかし　　イ　ただし　　ウ　それとも
エ　したがって　　オ　しかも　　カ　なぜなら

②
③

㈣　次の文章は、第五段落以降に述べられている発想力の問題について、ある生徒が書いたものである。①から⑥までの文の中から、本文に書かれていない考えを含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

①私は、この文章を読んで、現在の将棋ＡＩが膨大な棋譜を学習して新手を発想するようになっていると知り、プロ棋士が将棋ＡＩの足元にも及ばなくなる時代が本当に来るのだという実感をもちました。②しかし、現在の将棋ＡＩは人間がプログラミングしたものであり、負けそうになったときに将棋盤をひっくり返すような、プログラムの枠組みをはみ出す発想はしません。③そうした発想を生み出す欲望自体をもっていないからです。④もし、様々な欲望を自ら獲得するＡＩが開発されたとしても、人間と同じ身体をもたないＡＩが発想するアイディアは、人間にとって意味のあるものにはならないと思います。⑤むしろ、そのようなＡＩの抱く欲望は、人間に害を及ぼす危険性があるので、欲望を自ら獲得する生命的なＡＩの開発については、制限するべきだと思います。⑥そして、価値ある発明・発見や芸術的創作は、人間の仕事として残しておいてほしいと思います。

㈤　次の文は、本文中のどの段落について述べたものか。段落符号で答えなさい。

ＡＩを搭載したロボットが身体感覚に関わる内容を人間に教えるのは難しいということを、具体的な例を用いて説明している。

㈥　次のアからオまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　現在のＡＩは、聴衆が本物のバッハの曲と区別できないような曲を作ることができるようになっており、その能力は革新的な創作行為が可能な段階にまできている。

イ　人間には多様な感性がある一方で感覚の通有性もあり、多くの人々が何に感動するかをアプリオリに知ることができるため、芸術的創作行為が成り立つ。

ウ　現在のロボットにはバットの振り方を人間にきめ細かく指導することは難しいが、人間の身体感覚がインプットされたロボットの登場により、まもなくそれは可能となる。

エ　将棋ＡＩが人間を打ち負かしても、将棋を指すプログラムをコンピュータ自身が開発したわけではないため、いまだＡＩは人間の力が及ぶ範囲内にある。

オ　ＡＩが飛躍的な発想をして人間を感動させたり驚かせたりすることを望む声もあるが、ＡＩがコンピュータのプログラムである限り、それは実現不可能である。

四

次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの㈠から㈣までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

鄭人、郷校に遊び〔鄭の国の人々が、村里の学校に集まって〕、以て執政を論ず〔子産の政治を批評した〕。然明、子産に謂ひて曰はく〔言うことには〕、「郷校を毀たば如何〔廃止したらどうですか〕。」と。子産曰はく、「①何ぞ為さん。夫人朝夕して退きて〔朝と夕に出仕して勤務が終わると〕遊び、以て執政の善否を議す。其の善しとする所の者は、吾則ち之を行ひ、其の悪しとする所の者は、吾則ち之を改めん。是れ吾が師なり。之を若何ぞ之を毀たん。我、忠善を以て怨みを損する〔真心をこめて善を行うことで人の恨みを減らすことができる〕を聞く。②威を作して以て怨みを防ぐを聞かず。豈に遽かに止めしめざらんや〔すぐに人々の批判をやめさせることはできないことではない〕。然れども猶ほ川を防ぐがごとし。③大決の犯す所は〔堤防が大きく切れると〕、人を傷つくること必ず多し。吾救ふこと克はざるなり〔救うことができない〕。小決して道かしむるに如かず〔少しずつ堤防を切って水を導く方が得策である〕。吾聞きて之を薬とするに如かざるなり。」と。

（「春秋左氏伝」より）

（注）○ 然明＝春秋時代の鄭の官人。
○ 子産＝春秋時代の鄭の宰相。

㈠ ①何ぞ為さんの現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　政治を批評することにどのような意味があるのか
イ　どうして政治を批評した人々を罰しないのか
ウ　どうして学校を廃止したりしようか
エ　学校を廃止するのはどのような理由からか

□

(二) ②威を作してとあるが、これはどのような行動を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　敬意を抱くこと　イ　権勢を振るうこと　ウ　実力者を頼ること　エ　意地を張ること

(三) ③大決の犯す所は、人を傷つくること必ず多しとは、どのようなことをたとえているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　政治への不満が爆発して世の中が乱れ、人々を苦しめること
イ　政治的な不正がはびこり、善良な人々に損害を与えること
ウ　人々の対立を助長して疑心暗鬼にさせ、信頼関係を損なうこと
エ　大きな災害が起こり、多くの人々が悲しみに暮れること

㈣　次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　子産は、人の恨みは川の水と同様に途絶えることがないと言った。
イ　子産は、政治に対する批判は自分の師というべきものと考えていた。
ウ　然明は、学校を廃止するという決定を子産が下したことに安心した。
エ　然明は、進言を薬として政治を改めようとしない子産に失望した。

二〇一八年度　愛知県公立高校入試問題（A）

一

解答

㈠エ　㈡ア　㈢それは一方　㈣エ　㈤ウ・オ

解説

㈠「歓迎の挨拶」をするのがそもそも「全く苦手」な筆者にとって、その挨拶を「外国語でのべるなどということ」は、よりいっそうむずかしいと述べている。

㈡前に、筆者の「お話にならないような」挨拶を、友人は「格調高い英語に通訳して、堂々たる演説にしてくれた」とある。Aには友人の作業を表すことばが、Bには筆者の挨拶を示すことばが入る。

㈢第三段落で「直訳調」の「ドイツ語訳」、第四段落で「できるだけ読みやすい訳」を心がける「イギリス」の伝統的な訳し方を挙げる前の、第二段落の文章に着目。「一方においては…」「他方では…」という形で、「わたしたち」が「挑戦目標」とすべき翻訳を示している。

㈣「いい翻訳のための二条件」について、「ドイツ」的な訳と「イギリス」的な訳という具体例を挙げて説明したあと、その説明に説得力をもたせるために、第五段落で、「音楽の演奏」という例を挙げ、「譜面に忠実であることと自己の一貫した解釈をもつことの二つが要求される」と述べ、さらに、「自然研究や歴史研究」という例でも同様のことが言えると述べている。

㈤第五段落で、「演奏」においては「譜面に忠実であることと…解釈をもつことの二つが要求される」とした上で、「よい演奏よい翻訳」のための「必要条件」を示している。また第六段落では、「映画や流行歌」の翻訳された「情緒的題名」を取り上げ、「万事がこの調子で」「余計な解釈によってふくれ上がった情報だけにとり囲まれている」と、「とんでもない判断や行動のあやまちを…させることになるかもしれない」と警鐘を鳴らしている。

二

解答

㈠①しょうれい　②拝(む)　㈡ア

解説

㈡「包装」と書く。アは「装着」、イは「操縦」、ウは「地層」、エは「輸送」と書く。

三

解答

㈠ウ　㈡(人間の身体知は、)身体感覚に基づいた知識で、神経系で複雑につながっている脳と身体の総体によって獲得される。また、身体感覚は必要な技能やひらめきを与えるものである。(80字)(同意可)　㈢②エ　③オ　㈣⑤　㈤4　㈥イ・エ

解説

㈠「それ」は、「多くの人々に新規性を感じさせる曲を作ること」を指す。音楽には「多くの人々を心地良くさせるメロディやリズムのパターン」が存在するが、AIは「人間と同じ脳を有していない」ため、「人間が何に感動するのか」について前もって知ることができないことを、「困難」な理由としておさえる。

㈡「身体知」を「言葉では明示しがたい無数の身体感覚に基づいた知識のこと」と説明した上で、「身体知」が「脳と身体」の「総体によって獲得されて」いること、この「身体知」の基になっている「身体感覚」が「スポーツ…対人サービス」などの活動に「必要な技能やひらめきを与えて」くれると述べている。

㈢②「マニュアル外のきめ細かなコーチング」が難しいことを理由として受けて、「通り一遍のコーチ」はできても、「名コーチ」にはなれない、と述べている。③AIがプロ棋士の「まね」だけでなく「プロ棋士が指したことのない新しい手」を指せるようになったことに、「プロ棋士の対戦記録」から学ぶことがなくなり、「将棋AI同士の対戦の棋譜」から「新手」を編み出すようになったことをつけ加えている。

㈣第七段落で、「様々な欲望をおのずと獲得できるようなAI」について、「そのようなAI」が「生み出すアイディアは人間にとって意味のあるものにはなりません」と述べているが、「害を及ぼす危険性がある」ことや、「制限するべき」ということは述べていない。

㈤「身体感覚」に基づいた「身体知」について説明し、ＡＩ・ロボットが人間のような身体知を自ら獲得することはできないと述べたあと、「バットの振り方」を例に挙げて説明していることに着目する。

㈥第二段落で、「人間が何に感動するのかをアプリオリに…知ることができない」というＡＩと対比させて、人間同士には「感覚の通有性」が存在し、他人にとっても心地良いメロディを作ることができると述べている。また、第六段落で、「将棋ＡＩを設計し開発したのは、他ならぬ人間」である以上、「いまだＡＩは人間の手の内に」あると述べている。

四

解答

㈠ウ　㈡イ　㈢ア　㈣イ

解説

㈠「何ぞ」は反語の意を表す。「郷校を毀たば如何」と言われた子産は、「どうしてそのようなことができようか、いやできない」と述べている。

㈡「執政を論ず」る者の口を封じるために、学校を廃止するという行動を指している。直前の文の「忠善を以て」と逆の行動であることをおさえる。

㈢人々が「執政の善否を議す」ことを「川」の流れにたとえ、人々の議論を封じることを「川を防ぐがごとし」とたとえていることから、せき止めた堤防が「大きく切れる」ことが意味することや、それによって起こることを考える。

㈣「執政の善否」の論議から導き出された「善し」「悪し」という意見について子産は、「是れ吾が師なり」として、「善し」と肯定されたことは「行ひ」、「悪し」と否定されたことは「改めん」と述べている。

口語訳

鄭の国の人々が、村里の学校に集まって、子産の政治を批評した。然明が、子産に言うことには、「村里の学校を廃止したらどうですか。」と。子産が言うことには、「どうして学校を廃止したりしようか。人々が朝と夕に出仕して勤務が終わると集まり、執政の賛否を議論する。そこで善いとされたことは、私がすぐに施行し、そこで悪いとされたことは、私がすぐに改める。これは私にとって

の師である。これをどうして廃止したりできようか、いやできない。私は、真心をこめて善を行うことで人の恨みを減らすことができると聞いたことがある。権勢を振るって恨みを封じこめるなどと聞いたことがない。すぐに人々の批判をやめさせることはできないことではない。しかしそれは川の流れをせき止めるのと同じことである。堤防が大きく切れると、必ず国の人々を大いに苦しめることになる。そうなったら私も救うことができない。少しずつ堤防を切って水を導く方が得策である。人々の論議を聞いてこれを薬とした方がよいのだ。」と。